

伊勢三河湾水先区水先人会（愛知県半田市）

安全運航と運航能率の増進を胸に

1隻ごとに成果 を実感できる、 やりがいのある 仕事

伊勢三河湾水先区の特徴

過酷な外海での乗下船

伊勢三河湾水先区は愛知県と三重県に囲まれた海域で湾の水域面積としては日本最大です。入口としては伊良湖水道航路のみでその幅は1200mと狭く、航路中央ブイを設けることができないほどです。そこへ朝夕の入出航ラッシュ時には小型船や漁船も含め多数の船舶が集中します。

船種としては他水先区に比べて自動車船が多く、風の影響を受けやすいため、強風時の業務には細心の注意を払わなければなりません。

そして、外海に面している湾口での下船時、荒天時には特に危険が伴いますので、安全に配慮した乗下船を行うなど慎重な対応が必要です。

職場環境

以下は、実際の女性水先人の言葉で、水先人は誰でも、円滑に業務が実施できるよう様々な対策が講じられています。

「一昨年、伊良湖岬に設置されている待機所を新築するにあたり、女性専用のトイレや部屋を設けるなど配慮頂いています。日々の業務を行うことに関しては女性だからといって問題はありません。妊娠・出産・子育てに関しては現在考えられる対策は最大限になされていると感じます。

私自身、子供が4才の時にこの仕事を始めましたが、これまで大きな問題なくやってきました。もちろん、夫をはじめとする周囲の手助けがあってこそですが、この点に関しては水先人であるから特別というわけではなく、他の働きながら子育てをされている女性も同様と考えます。

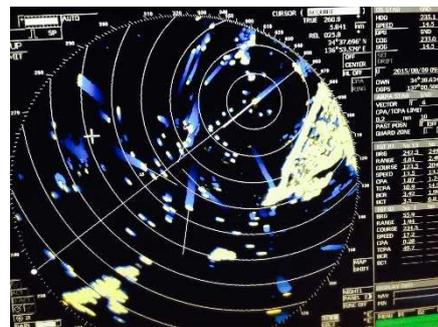
仕事自体は本船への乗船時間は通常であれば4時間前後であるものの、準備や移動を含めると多少拘束時間は長く、夜間に動くことが多いので家と仕事の時間調整を上手く行う必要があります。また、荒天での乗下船等を考えると大変な仕事ではありますが、個人で動くことがほとんどで、子供の体調や予定に合わせて休みを取得できることは比較的自由が効くという点で働くお母さんにとっては非常に魅力的な仕事だと思います。」



名古屋港出港前、コンテナ船の船長と。船の種類や性能、気象・海象状況、他船の動静等を考え水先業務を行います。毎回変化する状況に面白さと難しさがあります。



名古屋港入港。多くの船が4時頃から伊良湖水道へ入航し、8時頃には岸壁へ着岸します。この時間帯は入港ラッシュとなり本船の前後に船が連なっています。



豊橋港からの出港時のレーダー画像。本船は右上の円の中心から伊良湖航路へと向かっています。漁船を含む多数の船舶を避けつつ航行可能な限られた水域を進みます。

水先人会の概要

伊勢三河湾水先区水先人会

代表者：小鹿 邦博(会長)
所在地：愛知県半田市
11号地1-5
事業内容：水先業
会員数：115名
(令和3年4月時点)



URL：<http://isemikawapilot.jp/>